

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1】

授業作り	重点	昨年度に引き続き、校内研究を中心として振り返り活動を充実させるとともに、様々な協働学習の充実を図り「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指す。また、AI機能をもつデジタル教材や協働学習支援ツールなど一人1台のタブレット端末の活用や、ICT機器を効果的に活用した授業を推進する。
環境作り		児童が学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組めるよう掲示物を工夫する。また、ユニバーサルデザインの観点から掲示板のカーテンを適宜使用し、ホワイトボードまわりの情報を制限して落ち着いて学習に取り組める環境作りをする。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名や片仮名、漢字を確実に習得する。 ・助詞や拗音、促音を正確に覚えて、書けるようにする。 ・学習の中で書きたいと思う内容を簡単な文章に表せる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 平仮名や助詞、拗音、促音などの既習事項についての家庭学習における取組 ② 文章を書く練習 ③ 自分の経験を分かりやすく伝える練習 ④ 答えが10以下の計算練習の復習 ⑤ デジタルドリルの活用
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名、片仮名、漢字の混じった文章をすらすらと読むとともに、文章の内容を正確に理解する力を伸ばす。 ・拗音、促音の混じった言葉や片仮名をマスの使用ルールに従って書くことや、文章の書き出しや改行に伴ったマス目の使い方を身に付ける。 ・既習の漢字の定着が低いため、既習の漢字を正しく読んだり使ったりする。 ・計算能力の個人差が大きいため、1桁の足し算や引き算、2桁の筆算など2年生での必要な計算能力を確実に身に付けさせる。 ・文章題で問われている内容を正確に理解し、正しい式を立てることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日の家庭学習での音読 ② 教材の内容を短い文で表す活動 ③ 家庭学習での日記 ④ デジタルドリルの活用 ⑤ 朝学習での既習の計算の復習 ⑥ 毎時間の授業で文章題の内容確認 ⑦ 毎日時計を読む習慣付け

		<ul style="list-style-type: none"> 生活経験の違いを考慮し、時計を読む能力に個人差が大きいため、時計を読む力を正確に身に付ける。 	
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 書くことや読む力に対し、言語領域の定着が十分でなく、それに伴い話すことや聞く力が低くなっていると考えられる。語彙量を増やす必要がある。 算数の力は全体的に高い。特に測定の領域は高いが、図形を捉える力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 語彙量を増やすことと同時に、それらを活用する力を身に付ける。それを書くこと、読むことだけでなく、特に話すときに活用できるようにする。 聞いたことを自分の言葉に置き換える、一つの意味を複数の言葉で表現する力を育成する。 測定の領域の力は高いので、単位変換などでつまずきのないように、引き続き向上を図る。 図形は描画を中心にして概念を捉えるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 国語辞典の使い方の早期指導 学校・家庭での日常的な辞典の使用 様々な形態での「話す」経験の充実 短作文での振り返り活動の充実 面積の単位を図表するなど、測定する力を生かした図形学習 作図の学習補充、タブレット端末およびデジタルドリルの活用
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 話すこと、聞くことの領域について力の向上が必要である。 図形領域について力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手して発言する児童は多くいる。目的に応じ、自分の考えが相手に伝わるように話すことができるようにする。 大事なことは何かを付けて、最後まで集中して聞くことができるようにする。 定規やコンパスの使い方を練習し、正確に作図することができるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 日記やスピーチなど、自分の考えや意見を文章化する機会の充実 机上进行し集中して話を聞く環境作り 聞く姿勢の徹底 三角定規、コンパスなどの道具の使用の慣れ デジタルドリルの活用
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 国語の正答率はどの領域も全国平均よりも高い結果となっているが、その中で話すこと、聞くことの領域については学力の向上をさらに図る必要がある。 算数の正答率はどの領域も全国平均よりも高い結果となっているが、その中でデータの活用の領域についてはもう少し力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を理解し、それに合わせて自分の意見や考えを表現する力を育成する。 自分の考えや意見を積極的に挙手し発言する児童が多い。今後は、友達の考えや意見を考えながら聞く力を育成する。 計算の決まりを正しく理解し、正確に計算できる力を身に付ける。 図形の特徴を整理し、正確に作図することができるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりに即した課題の設定 デジタルドリルの活用 教育活動全体を通して話すこと・聞くことの意識付け 三角定規、分度器、コンパスなどの道具の使用の慣れ 毎時間のペア学習またはグループ学習の設定
6 学	<ul style="list-style-type: none"> 国語、算数ともに知識、技能のポイントは比較的高い水準にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 読解力向上に向けて、全ての児童が日頃から読書に親しむ習慣を身に付けさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 年間を通して学校と家庭学習での読書の取組 デジタルドリルの活用

年	・算数の文章題の読解力の向上、国語の物語文、説明文で読み取ったことや自分の考えをまとめて、文章の構成に気を付けて表現する力の向上が必要である。	・文章の構成を理解し、それに合わせて自分の意見や考えを表現する力を育成する。	③ 児童一人ひとりに即した課題の設定
---	---	--	--------------------